

2 亀山市の健康・医療に関する統計的な状況

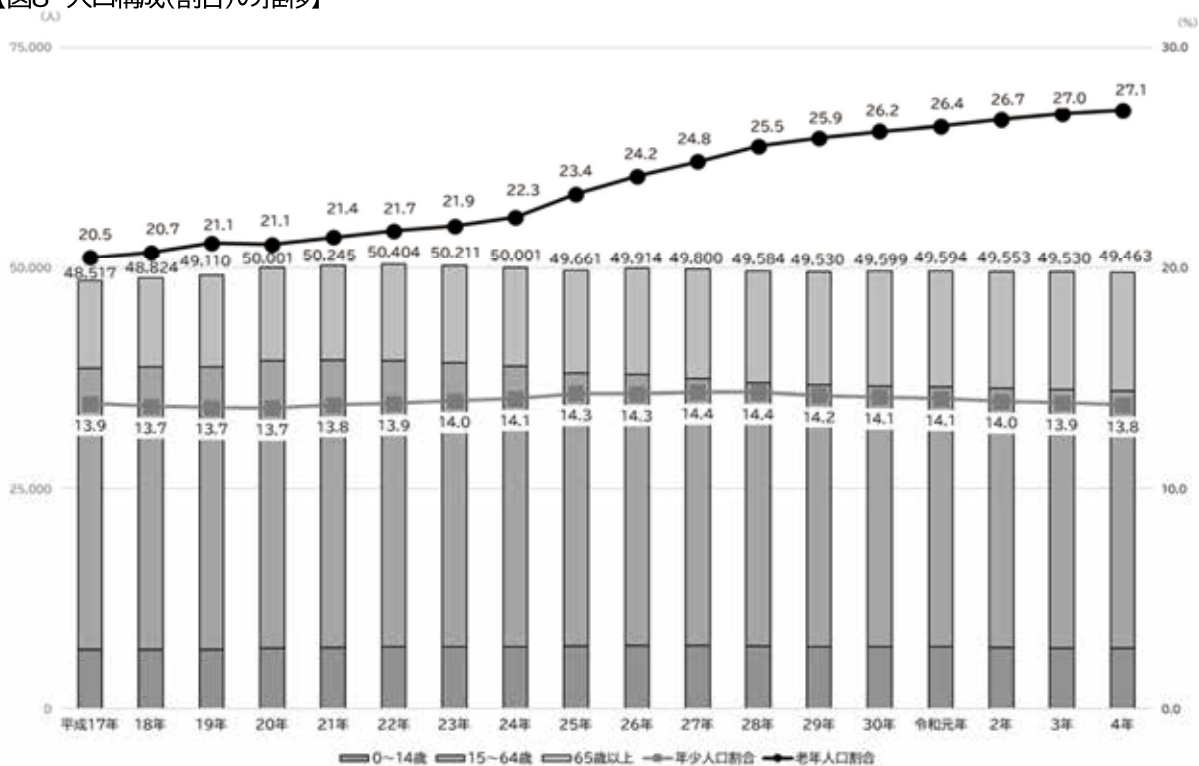
(1) 人口の動向

①人口の推移

本市の人口の推移を見ると、緩やかに増加傾向を経て平成22年にピークを迎え、それ以降、緩やかな減少傾向に転じ、令和4年4月1日現在では49,463人となっています。

人口構成の推移を見ると、年少人口(0歳から14歳)の割合は横ばいの状況で、県下でも最も高い数値を保っています。生産年齢人口(15歳から64歳)の減少に伴い、老年人口(65歳以上)の割合は平成24年の22.3%から令和4年には27.1%に増加しており、少子高齢化が進んでいます。今後は、さらにこの傾向が強まると予想されます。

【図8 人口構成(割合)の推移】



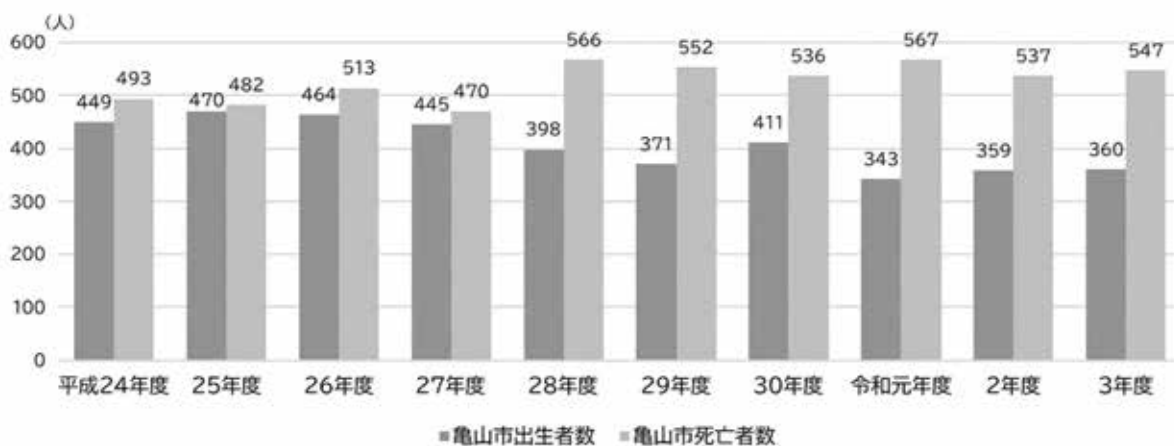
資料:住民基本台帳(毎年4月1日)

②出生と死亡

本市の出生者数の推移を見ると、令和3年度の出生者数は360人で、450人前後で推移していた平成27年度までと比べると年間で約100人減少しています。また、本市の死亡者数の推移を見ると、令和3年度の死亡者数は547人で、490人前後で推移していた平成27年度までと比べると約50人増加しています。

各年度の出生者数と死亡者数の差を見ると、死亡者数が出生者数を上回る「自然減」の状態ながらもその差は大きくありませんでしたが、平成28年度以降は死亡者数が出生者数を大きく上回っています。

【図9 出生者数と死亡者数の推移】



資料:住民基本台帳(各年度)

③死因

死亡原因を見ると、平成28年から令和2年まで第1位が悪性新生物(がん)、2位が心疾患の順になっており、年によって変動はありますが、脳血管疾患も高く、生活習慣病が大きく関わっています。

【図10 死因別死者数の推移】

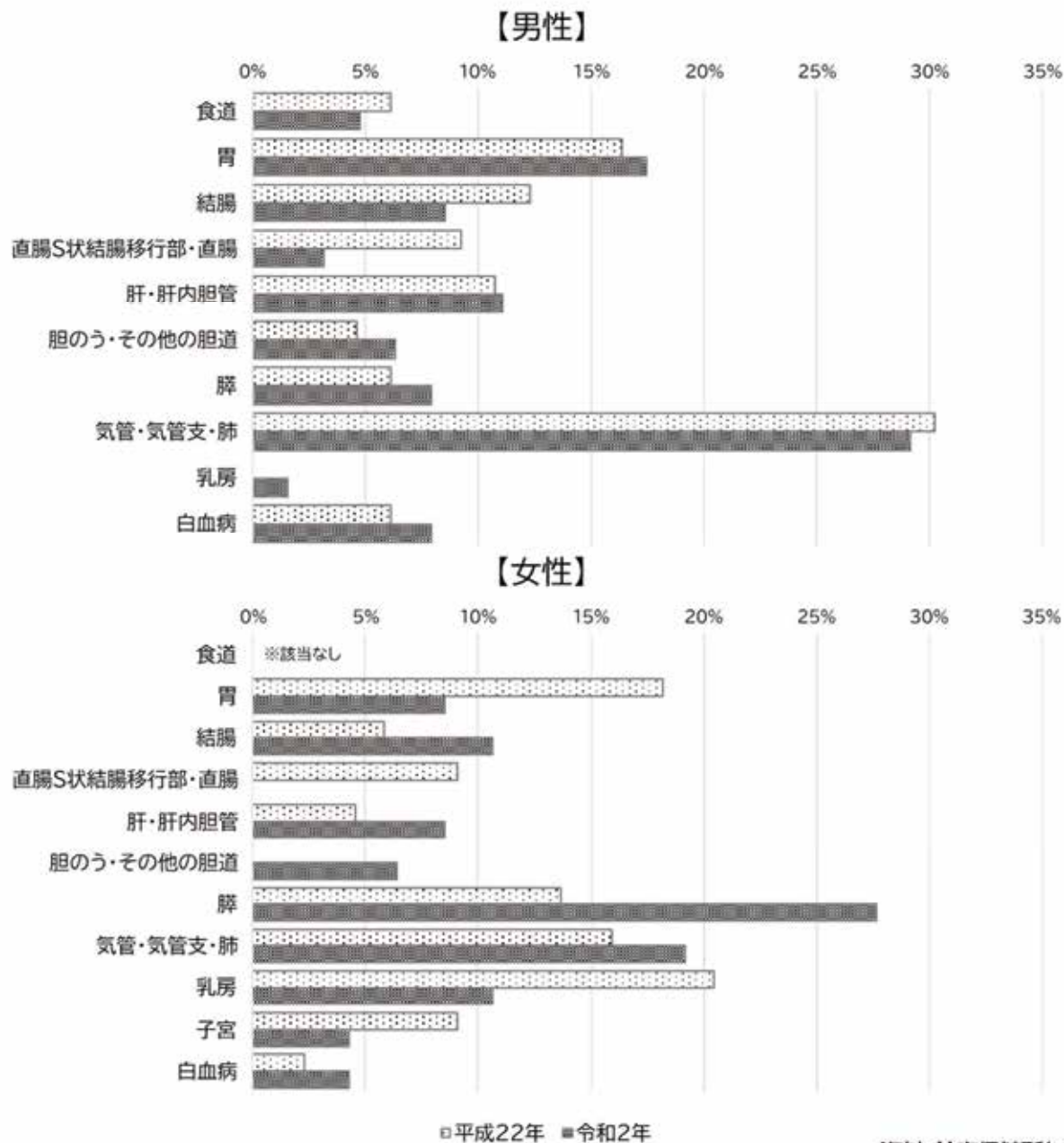
	平成28年		平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	死因	人数	死因	人数	死因	人数	死因	人数	死因	人数
1位	悪性新生物	137	悪性新生物	133	悪性新生物	122	悪性新生物	118	悪性新生物	142
2位	心疾患 (高血圧性を除く)	84	心疾患 (高血圧性を除く)	82	心疾患 (高血圧性を除く)	90	心疾患 (高血圧性を除く)	95	心疾患 (高血圧性を除く)	95
3位	肺炎	68	脳血管疾患	61	肺炎	50	老衰	60	老衰	74
4位	脳血管疾患	50	肺炎	54	老衰	45	脳血管疾患	46	脳血管疾患	36
5位	老衰	39	老衰	49	脳血管疾患	39	肺炎	40	肺炎	23

資料: 鈴鹿保健所年報

④主要部位別の悪性新生物(がん)の死亡割合

最も多い悪性新生物(がん)の部位について、平成22年と令和2年の男女別の比較を見ると、男性は、どちらも「気管・気管支・肺」が最も多く、「直腸S状結腸移行部・直腸」が減少する一方で、「膵臓」が増加しています。女性は、「胃」「乳房」が減少し、「膵臓」が増加しています。

【図11 主要部位別に見た悪性新生物(がん)死亡割合の比較】



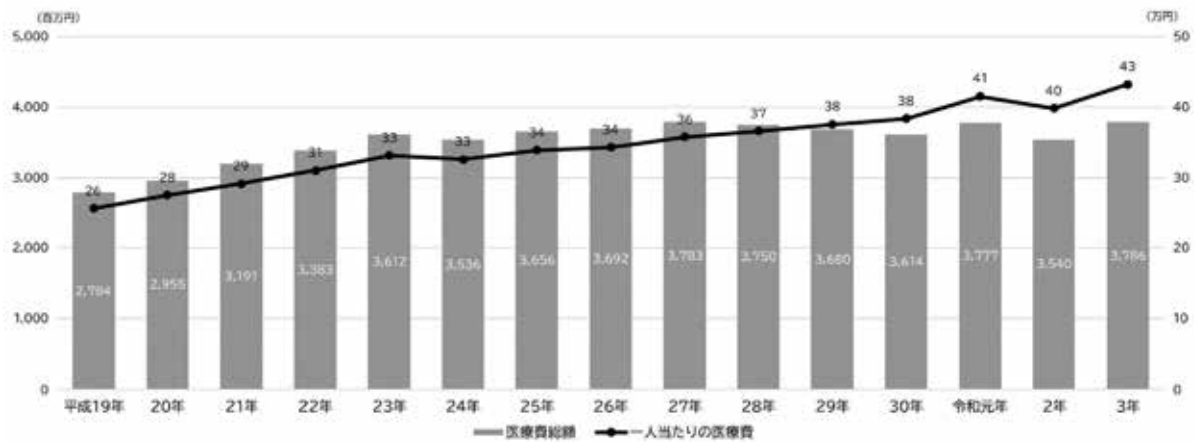
資料:鈴鹿保健所年報

(2) 医療及び介護等の状況

① 国民健康保険医療費の推移

亀山市国民健康保険にかかる医療費総額は、令和2年度においては新型コロナウイルス感染症の影響等から受診控えもあり医療費が減少しましたが、令和3年度は前年度の受診控えが緩和されたこと等により37億8,616万円となり、前年度と比較して増加となりました。また、亀山市の被保険者一人当たりの医療費(年間)は、高齢化の影響や医療の高度化等により年々増加し、令和3年度は43万2,210円となり、平成19年度から15年間で17万5,431円(68%)増加していることから、今後も増加することが推察されます。

【図12 医療費の推移】



資料:市民課

②入院・入院外別の主な医療費の状況

令和元年度から令和3年度における各年度の入院・入院外別の主な医療費の状況については、各年度の4月から3月診療分まで(12ヶ月分)のレセプトを基に分析した結果、医療費上位5疾病については年度により順位に変動はあるものの、疾病名は固定され、入院においては上位3疾病の医療費総額に占める割合は高くなっています。また、入院外においては、上位5疾病とも医療費総額に占める割合は高くなっています。

【図13 入院・入院外の医療費比較(令和元年度から令和3年度)】

疾病分類(大分類)	入院					
	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(円)	構成比(%)	金額(円)	構成比(%)
新生物<腫瘍>	308,557,685	21.57%	291,618,680	23.14%	273,101,262	19.24%
精神及び行動の障害	186,257,250	13.02%	196,917,704	15.63%	214,527,743	15.12%
神経系の疾患	95,045,024	6.64%	106,620,143	8.46%	120,191,634	8.47%
循環器系の疾患	324,441,765	22.68%	218,969,760	17.38%	266,571,309	18.78%
筋骨格系及び結合組織の疾患	90,906,580	6.35%	91,101,676	7.23%	108,328,113	7.63%

疾病分類(大分類)	入院外					
	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	金額(円)	構成比(%)	金額(円)	構成比(%)	金額(円)	構成比(%)
新生物<腫瘍>	230,241,833	11.96%	237,355,780	12.71%	289,546,581	14.74%
内分泌、栄養及び代謝疾患	298,393,042	15.50%	288,242,910	15.43%	288,960,561	14.71%
循環器系の疾患	271,627,404	14.11%	252,917,885	13.54%	236,375,959	12.03%
筋骨格系及び結合組織の疾患	202,870,243	10.54%	185,152,327	9.91%	180,428,713	9.18%
腎尿路生殖器系の疾患	211,124,437	10.96%	221,992,144	11.88%	228,999,920	11.66%

資料:市民課

③生活習慣病関連疾病の国民健康保険医療費

生活習慣病の基礎疾患及び生活習慣病に係る重症化疾患(糖尿病、脂質異常症、高血圧性疾患、虚血性心疾患、くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、脳動脈硬化(症)、動脈硬化(症)、腎不全)を生活習慣病とし集計しました。生活習慣病の医療費は7億7,363万円で医療費全体に占める割合は22.9%となっています。

【図14 生活習慣病と生活習慣病以外の医療費(令和3年4月から令和4年3月)】

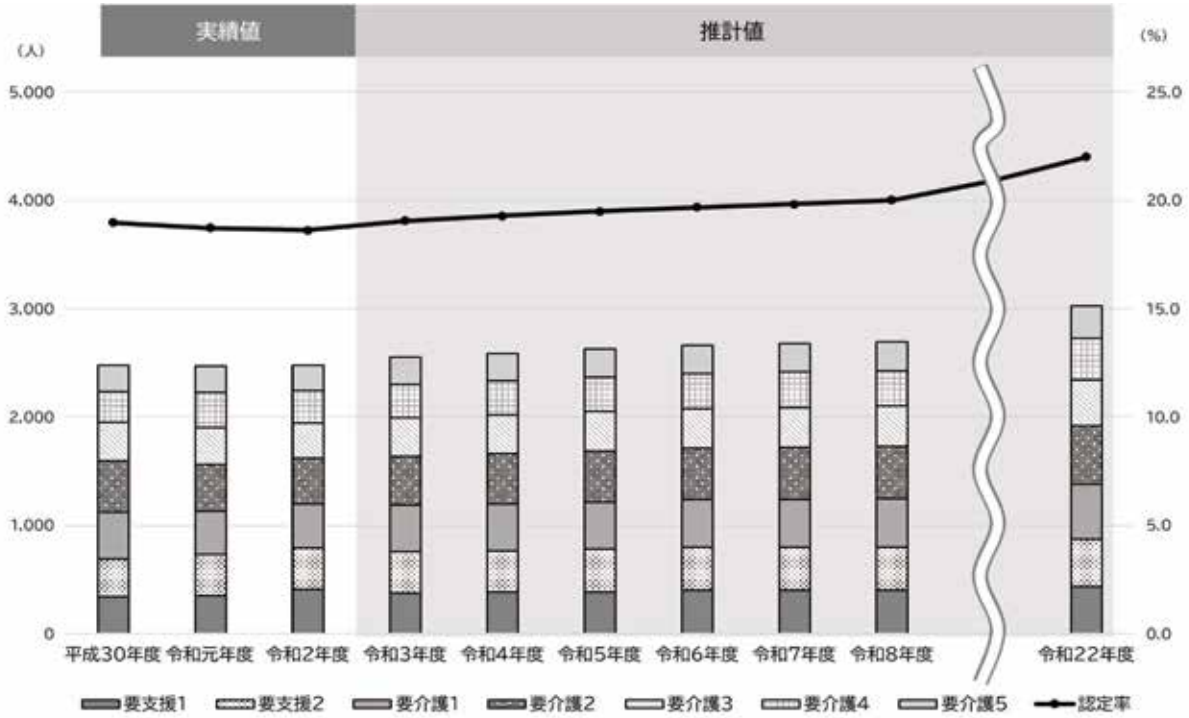
	入院(円)	構成比(%)	入院外(円)	構成比(%)	合計(円)	構成比(%)
生活習慣病	203,960,279	14.4	569,666,417	29.0	773,626,696	22.9
生活習慣病以外	1,215,334,191	85.6	1,395,085,073	71.0	2,610,419,264	77.1
合計(円)	1,419,294,470		1,964,751,490		3,384,045,960	

資料:市民課

④介護の状況

65歳以上の人口は、(令和4年4月1日現在)13,427人ですが、要支援・要介護認定者は令和3年度で2,350人となっており、経年的に増加傾向です。今後、令和7年度には、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者の年齢層に達することから、要介護(要支援)認定者が増加することが予想されます。

【図15 認定割合の推移と将来推計】



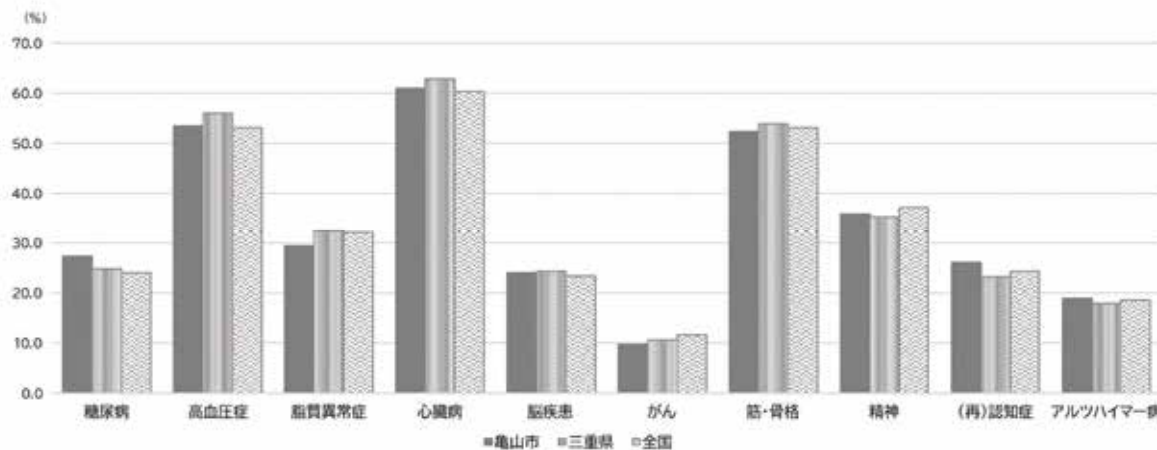
※令和3(2021)年度以降は、平成30年(2018)~令和2(2020)年度の男女別・年齢別認定率平均値を人口推計値に掛け合わせて推計しています。
 ※認定者数には住所地特例分を含みます。また、認定者数は第1号被保険者分(65歳以上)及び第2号被保険者分(40~64歳)の合計値ですが、認定率は第2号被保険者を含む要支援・要介護認定者数を第1号被保険者(65歳以上人口)でわったものです。

資料: 鈴鹿亀山地区広域連合

⑤要介護者の有病率

本市の要介護者の有病率は、心臓病、高血圧症、筋・骨格疾患の順に高く、また三重県や全国に比べて糖尿病の有病率が高いことが分かります。

【図16 令和3年度の要介護者の有病率】

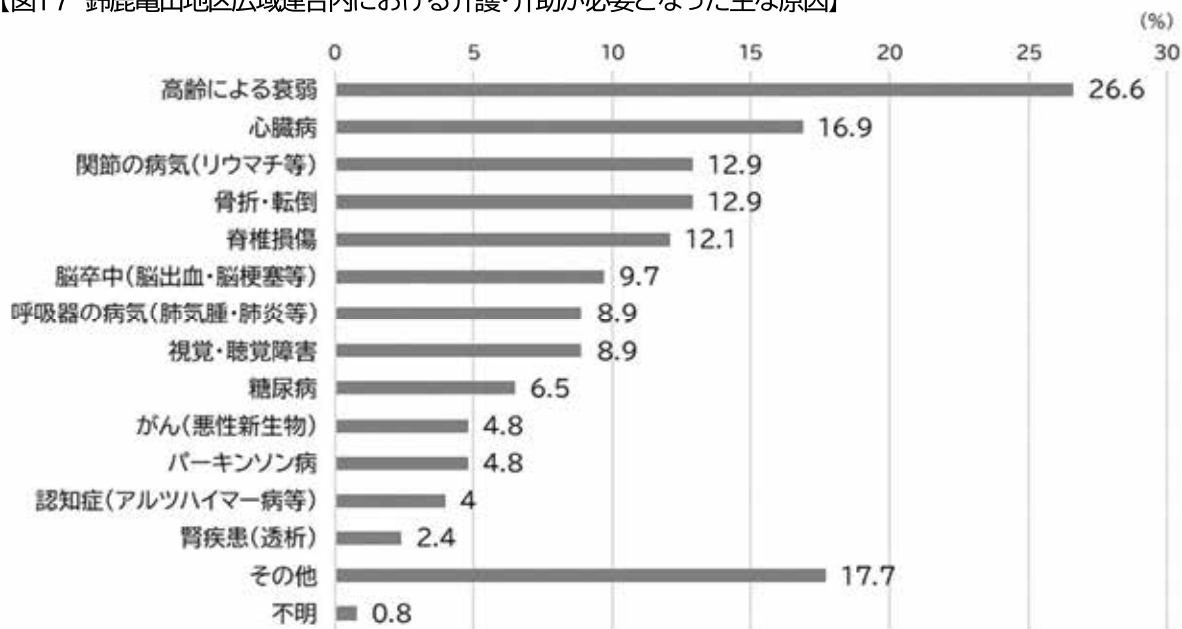


資料:市民課

⑥介護・介助が必要となった原因

鈴鹿亀山地区広域連合内で介護・介助が必要となった人の主な原因としては、脳卒中や糖尿病など生活習慣病や関節の病気や骨折など老年症候群が大きな割合を占めています。

【図17 鈴鹿亀山地区広域連合内における介護・介助が必要となった主な原因】



資料:鈴鹿亀山地区広域連合